

国家権力・推進派に永続斗争宣言をたたき
=文学部自治公争委員会委員長田島秀典=つけよ!

改進斗争の歴史を大きく照成し、既
大學支配様式 教育体制そのものの根
底的打撲などつき進んでいが故に、
さすがに一層恐怖した政府アルジョワ
シエは「暴力學生排斥、正常化」の名
目のをとて入封等を契機に暴力装置の
フル勃興をもつて東大、日大、中大、
立教等の初級拠点の切断、壁籠ともか
くしていざしてのであることを宣言し、
我々への彈圧を、かかる形而下的の実態
の中にあしてどうえておかなければなら
ぬのである。政府アルジョワシエは初
期拠点の切断、壁籠を強硬的に行うこ
とを通じて、三月中央層分離事件と算
りとした10年へむけこの大學再編策切
をもくろんでいるのである。そして我
々の無表斗争が、大學の目的別再編策
の粉砕のその一環としてあることを強
調しておきながら、我々はロックア
ウトへ抗して、田中半平氏田嶋義斗争
のその側面として革新的に鍛えあゆこ
れかねばならぬ。さては下から不振
の斗争体制を敵の襲撃開始となるだけ
を察してゆくことから始められねばな
らぬのである。

死力を尽して汗を拭いて、主義の勝利を取る。この勝利は、我々の敵のロツクアウト筋筋によつて極めて困難な面倒にせらざりで、そして我々の斗争体制も、いまだ十分とはいえない。現時点では、我々は「四五日になりば……」といふ様の由い舞弊をもつてはできない。何故なら、そのことは、現時点での斗争の放棄を合理化せしめる幻想へ依拠した主義であり、それにはかく、斗争体制の分離化を必然にからしめるであろう。と同時に敵の彈圧するの困難性の前にいるが、それには

ご斗つておこなうストライキ斗争そのもの
問題へひとつがつてゆかざるをえない
のだ。敵の陣は我々の斗争の試合石
なのだ。我々の阶级斗争の生入民的意
義と鮮明化し、更に64年学園斗争
の正統的意義と主体的に承認する中か
ら陣は抗して斗争抜くところの決意と自負
をうち固め、自らの争辯をかけて斗争こう
でたる一か、文圖斗、庄勝斗の不滅であり不死
鳥の如く雄々しく起り上り、最高まで斗争
をこじこじこじこじこじこじこじこじこじこ